

二十二年五月九日接受 臺灣代官

記録局

受第五一八一號

第十七門
乙二

号外
并啟陳八頃當地在苗ノ外國人ヨリ先年或新
聞ニ日本ノ使節ヲ爾其ニ至リ土帝ニ謁見ノ際
土帝ヨリ日土兩國人民ハ元來同人種云々トノ御
意有之候由ヲ記載セリ右同人種クハ果シテ証跡
ノ據ルハキモノ有之候乎否ヲ質問致候者有之候
然ルニ我使節カ土爾其ニ至リレハ是迄承知不致
多分往年吉田正春カ彼地ニ至リテ前右等ノ談
話有之クニ非ルナキヤト被存候自然同人復命書
中ニ其廉相見ノ候ニ本邦人種論上ノ参考ニ相
成候義存致承知置度ヤ御手教一應御取調
相成無差支部分ハ寫シテ御垂示相願度候此段
御依頼迄申進候也

在朝鮮國日本公使館

明治三十三年四月廿五日

代理公使近藤真鋤

記録局次長内藤類次郎殿

MT 11212 03625

MT 11212 03624

第廿七
二

明治廿二年 五月廿二日 起
同 年 月 日 發遣

廿二年五月二十七日 謹識

記録局次長 (内藤)

丰作

送第 五 四 號

在 德 州 外 務 省 外 務 省 外 務 省 外 務 省

本年四月廿五日付外務省外務省外務省外務省

外國人等官有之報告日本外務省外務省

獨人等官有之報告日本外務省外務省

外 務 省

方は便由ラ或新聞に記載セシ有果シテ外務省外務省外務省

ト心算アリテ報告シ本年吉田外務省外務省外務省

名外國人等官有之報告日本外務省外務省

後令出給有之報告日本外務省外務省

且先年我は輝艦自之に在り

英國大使の紹介に依り自艦長官等三枚福見矣

事ノ旨ニ依り自艦長官等三枚福見矣

ト又傳シタル者ニ依り自艦長官等三枚福見矣

MT

11212

03627

MT

11212

03626

電信課長

大臣

次官

亞細亞

歐米

通商

條約

情報

人事

會計

文書

平和條約

日本外務省

主任

5494 (甲) 巴黎發 大正十年四月 十三日 在七〇〇
本有者

内田外務大臣 石井大使

分五五三號

内田公使、君府赴任、并シ四月十三日 Temp
ノ社説ニ於テ一節アリ

日本ハ多回お耳古。Point Commissionerノ派
遣スルニ決シ内田氏ハ今將ニ君府ニ赴任セシム
日本ハお耳古ト聯合興國トノ間ニ平和ノ成リ
次第君府ニ大使彼ヲ設置スル計画ナレハ
同 Commissionerハ進テ大使トシテ之ヲ援テ
之性値ハ所約モ之能ク日本外交ノ周到

總各支分

MT 11212 03629

着意ナルハ今在東方外交ノ親密者ナリ又

其直カラ不其ト通者條約日一帯停足駆走ト

ナルニ日本ハお耳古ニ對シ何者領土の野心ナリ

セカレテ其政策ハあスルニお耳古ノ獨立擁

護ニアシ又區激派ガ動モスルハ西ニトスルニ

日本ハお耳古ニ外交及リ送リ且クお耳古ノ獨立擁

護支トシテ立クニヤセキ七百系ノ人ト優劣ナレ

陸海ノ事トナラズ日本ノ威望ハ大ナラカレラ

ニ角日本ガ Commissionerノ派遣セルコトハ

取テモ實益アリヤ若シ吾人ノ信スル如ク日本

ノ Commissionerガ君府ニ到着後事情ヲ

(2)

MT 11212 03630

祝聖^ニ尊^ニ古^ノ獨^ニ立^テ又^モ折^リ任^ニ當^ラカ^ニ之^レ人^全ク
吾^レ人^之志^ニ上^ニ通^シ合^スル^ニ事^有リ^云々

MT

11212

.03631

REEL No. 1-0064

0079

1
1
2

對土條約締結經過（歐洲大戰前）

送
トルコ
本

明治八年以來我國ハ政治上及經濟上ノ意味ニ於テ土耳其トノ間ニ條約締結ノ希望ヲ有シ之カ爲メニ劃策スル所アリキ、而シテ明治十四五年ノ交我政府ノ命ニヨリ柳原公使ハ露國駐在中日土兩國間ノ條約締結ニ關シテ交渉ノ端ヲ開キタリシモ當時何等ノ結末ヲ見ルニ至ラスシテ止ミシカ越テ明治廿三四年ノ交ニハ先ニ小松官御夫妻遙ニ土都ヲ訪問セラレタル答禮使トシテ土耳其ヨリ「オスマン、パシヤ」ヲ使節トシテ我國ニ派遣セシカ彼等ハ其歸路遭難シタリ故ニ我國ハ軍艦ヲ以テ遭難者ヲ土都ニ護送セルコトアリキ其後明治廿六年ニ至リ青木公使ト獨國駐劄土耳其大使トノ間ニ更ニ交渉ヲ開キタル處領事裁判權ノ問題ニ關シテ彼我希望ヲ異ニシ我ハ歐洲列強ト等シク領

外務省

MT 11212 03633

日土外務省(已號用紙)

事裁判權ヲ保有センコトヲ主張シ彼ハ絶對的ニ對等ノ條約ヲ希望シ

我領事裁判權ヲ認容スルヲ肯セザリシカ爲談判再ヒ行キツマリ結局我ニ於テ裁判權問題ハ後日ニ殘シ差當リ修好上ノ關係ニ付日暹間ニナシタル宣言書ト同様ノ簡單ナル宣言書ヲ交換スルコトヲ申入レタレト土耳其政府ハ新ニ土國ト締結スル通商修好條約ハ悉ク治外法權ナキノミナルヲ主張シ且ツ偶此頃土耳其ハ希臘トノ間ニ戰端ヲ開キシカハ明治三十一年ニ至ルモ我ニ對シ何等ノ回答ヲモ爲サザリキ明治三十一年中我國ハ在埃牧野公使ヲシテ交渉セシムル所アリ更ニ明治三十七年ニ至リ其交渉ヲ繼續セシカ日露開戰中土耳其國內ニハ親露派ノ勢力稍大ニシテ且土耳其衰微ノ原因タル治外法權ニツキテハ土國ニ於テ到底我ニ讓歩スル事ヲナサス隨テ我國ハ日露戰爭中ニ

(已號用紙)

外務省

MT 11212 03634

門	1
類	2
項	1
號	

第五七號

八九二八暗 君府發 大正十二年六月二十五日 四后、三、一〇
本省着 本省着 前、一、〇五

内 田 外 務 大 臣

内 田 大 使

本使ハ當國內地視察ノ爲去ル十七日出發「アンゴラ」ニ赴キ二十三
日歸著セリ同地滞在中國民議會議長「ムスターフ・ケマル・バシヤ」
首相兼臨時外相「ラオフベイ」及外務次官 ノ話ニ依レハ
土國政府ハ平和克復後モ引續キ同地ニ止リ君府ニ移轉セサルコトニ
決定セル趣ニテ既ニ諸官省、旅館、俱樂部等ノ新築及附近道路ノ改
築ニ著手セリ同市ノ地形ハ將來ノ大都會トシテ發展ノ餘地アルモ目
下家屋不足ニシテ外國人旅客ハ汽車中ニ宿泊スルモノ尠カラサル有
様ニテ大公使館用トシテ適當ナルモノハ皆無ナリ

第八卷國內政事雜記

外 務 省

MT 11212 03636

寫

帝國海外外交手帳

(已號用紙)

ハ君府ニ在留セル邦人ヲシテ黑海艦隊ノ行動ヲ視察セシメタルノミ
ナリキ

而シテ日露戰爭終決後ハ日露ノ關係其面目ヲ改メ爲ニ日土通商條約
締結ノ談判一時見合ス事トナレリ、然ルニ明治四十二年ノ交我國
ハ彼ノ希望モアリテ在英大使ヲ通シテ又々右條約締結ノ爲ニ盡力ス
ル所アリシカ此頃ヨリ獨逸ノ勢力近東ニ及ヒ伊土兩國ノ開戰アリテ
土耳其ハ治外法權問題ノ満足ナル解決ヲ含マサル新條約又ハ取極メ
ハ之ヲ締結セサルコトヲ聲明シ爾來歐洲大戰當時ニ及ヘリ

外 務 省

(已號用紙)

MT 11212 03635

機密第一。御	大正十二年五月十七日	在羅馬に	特命全權公使	西原四郎	外務大臣伯爵	内田康哉殿	土耳其代表者ト會見ニ関スル件	(トルコ土間ニ在リ)
--------	------------	------	--------	------	--------	-------	----------------	------------

外務省

MT

11212

03638

(美濃半裁紙) 四角

日土

外務省

同政府ハ近々平和成立ヲ見越シ既ニ海外使節ノ詮衡ニ著手シ本邦ニモ適當ナル人物ヲ派遣スル筈ナリ現外務次官ハ伊國駐劄大使トシテ選定セラレ既ニ同國政府ノ「アグレマン」ヲ得タル由本人ヨリ聞キ及ヒシカ他ノ外務省官吏ノ話ニ依レハ右ハ唯外交代表者トシテ「アグレマン」ヲ得タルモノニシテ其大使タルヤ公使タルヤハ同人赴任當時ノ狀況ニ依リ追テ決定セラルヘシト云フ尙今回ノ旅行ニ付テハ土國政府ニ於テ本使ニ對シ出來得ル限りノ便宜ヲ與ヘ「アンゴラ」滞在中ハ其賓客トシテ待遇セリ

英佛伊勞山へ轉電セリ

(已號用紙)

MT

11212

03637

門 1
類 1
2

十日親善
内田大使の陳述
イタル、土耳其、日本、政府
代表内田親善大使は、記者
に陳述を述べ、聲明して曰く、
日本は従来通りの發展政策を積
累し且つ歐羅巴諸國と同一の方
針を以て土耳其の復舊に協力す
る積りである而して日本は近東
諸國條約の批准を次第出來得
る限り速かに土耳其と恒久的な
政治關係及び通商關係を樹立す
べく交渉を開始するであらう、
同種せる、所によれば日本は、
バルカン及びブルガリアに領事館を
開設せんとする。

請賣折紙
八月十四日

送込
本寫

土親善

MT 11212 03639

REEL No. 1-0064

0084

門類 /
類項 /
大文
號

電信課長

次官 志

亞細亞 歐米 通商 條約 情報 人事 會計 文書 平和條約 對支文化

件名
綴込名日土外交手帳係原

大正五年拾月廿參日記録係覽 主改
 一七八九
 本者看
 内田小務大臣
 烟公使
 二十八月廿一
 二十九日迄

第一二三號
 二瓶より在、通
 八月十四日東京電報トシテ十八日
 ハ不ウエスヤ、記スル優レハ日本
 ハ對支政策行詰ノ結果近東及中央
 亞細亞ニ着眼シ所富汗ト外交關係
 ヲ開始シ且近東ノ人ヲ派シ投資ノ可
 能性ヲ調査セシメト計畫之ツアリ
 土耳古ニ領事館開設セラレク且

MT 11212 03640

近々同國ニ商業代表派遣セラル。管中
 波蘭英併獨一郵報

MT 11212 03641

寫

受第二七一號

大正十三年五月三十一日接受

公第一八五號

大正十三年四月廿九日

在英特命全權大使男爵林權助

外務大臣男爵松井慶四郎殿

帝國中央亞細亞諸國ノ關係ニ関スル新聞記事

報告ノ件

當地新聞紙中或ハ帝國ノ波斯地方視察團或ハ在土
笠間書記官ノ言説等ニ関スル記事ヲ掲載シ近東及
中央亞細亞方面ニ於ケル帝國ノ行動ニ多少ノ注意ヲ拂ヒ
ツナルカ如ク思ハル處右ハ從末殆シト看過セラレタ
リシ同方面ニ於ケル帝國ノ地位ノ將來ニ関シ當國等ニ於

(成號用紙) 國納

外務省

11212

03642

テ漸次注意ヲ惹起シ來レル傾向ノ一端ヲ窺フニ足ルヤニ被存
候ニ付右等新聞記事切抜何等御参考迄ニ別紙ノ通
及報告候條々查閱相成度此段申進候也
(附屬書ハ畧ス)

(成號用紙) 國納

外務省

MT

11212

03643

又

門類
文書
事務

大臣
次官
電信課長
亞細亞
歐米
通商
條約
情報
人事
會計
文書
平和條約
對支文化

電信課長



10/39 (暗) 本署着
大臣十三年八月廿日
後、六、三〇
九、三〇

件名
綴込名
帝室の改め七回外支了件
上内
字一四(1) 任務約後

幣中有小外務大臣
並同書記官

第六一号
幣中の條約の實施ニ入りタルニ付當事務
斗モ甚速カラス在外公館トナルモノト思心
考セラル、如從來具申ノ諸上莫ニ追
加シ老ノ通り自午見ヲ開陳ス
一土國本年度豫算計ニハ英・佛・独
以等ニ於ケル土國代表ノ費用ハ存ス
モ日本ニ對シテハ之ヲ計上シ居ラス
土國側ノ内訖ニ係レハ右ハ財政公躬之

結果已ニ得ザルモノニシテ或ハ十月末
開會ノ議會ニ追加豫算計ヲ提
出スルコトアルハキモ恐心ラク來年度即チ
四月迄ハ日本ニハ何等代表者ヲ送ラ
ルルハキ事宣ニ依リテハ不取敢書詔官
ヲ赴任セシムヘキカ未定ナリト尚此占大
フアンゴラレヨリ確報次第再電スヘシ
三帝國トシテハ土國ノ代表如何ニ拘ラス
岩田地代表交換ノ形式ニ付大國間
ニ協定出來次第速ニ大公使ヲ
任命セシメ近東政策ニ關スル帝國
ノ地歩ヲ建設スルヲ得策トスルニシテ

MT 11212 03645

MT 11212 03644



本邦企業家、土國ニ於テ投資等
ノ上ヨリモ此際土耳其ニ對スル好感
ト興味トヲ示スヲ斷然切ト考メ
尙大公使カ信任状ヲフアンボラレニ捧
呈ス(ギハ)勿論場合ニ依リテハ各地ニ
居住スルノ覺悟ヲ要ス
(三)勃利ハ在希臘又ハ羅馬馬尼
帝口公使ニ對シ兼割ヲ命セラルルモ
格別大差ナシ但シ情報關係特ニ
通信、交通ノ系統ヨリスルモ又在當
地列國ノ公使及武官ノ安例ヨリスル
モ當田地ニ於テ兼任スルヲ簡便ナリト

MT 11212 03646

(四)海峽委員會ニ於ケル帝國代表
ハ三浦海軍少佐ヲ任命セラルルモ
ト考メル如右ハ何時頃發令ノ見込
ナリヤ將又今時ニ公使附海軍武
官ヲ兼任セシメラルルモナリト其指揮系統
及經費負擔關係ニ付詳細説明
示アリタシ
(五)當地公使員ニ對スル在勤俸
金(シテハ)客年(不明)公第(四)号
以テ上申シタル如爾來土化員ハ其相
場ヲ保テ居ルニ及シ邦化員ハ果シテ

MT 11212 03647

細河

?

?

他方土國政社ハ専ラ消費税ノ増率
ニ依リ財政ヲ彌縫スル爲メ物價
ノ昂騰ニ割強ニ上リ合セラレ邦
貨ノ購買力ハ四割以上ノ開キヲ
生シ居レリ尚大國駐在當地利英國
代表ノ在勤俸ハ年英貨八千磅
參事官又ハ一等書記官六千磅
佛國代表ハ在勤俸代表手當
ヲ加ヘ年三十五萬法英佛共ニ參
事官一等書記官ハ管内ニ居住ス
ル規定ニテ英國ハ初任ノ官補ト雖
在勤俸年九百五十磅ノ外宿

MT

11212

03648

舎ヲ與ヘラル帝國財政ノ現状ニ鑑ミ此
點ニ於テ必スモ英佛ニ拮抗スルノ
要ナキモ今後物價及邦貨換算
率ニ大差ナキ限リ右ヲ充分考
慮ノ上テ論議アリタシ

MT

11212

03649

電信課長

大臣

次官



16101

綴込名 日土外交干渉
昭和十一年五月廿七日
大正十一年五月廿七日

件名

欽

大正十一年五月廿七日記録係接受

笠向書記長

門類
項目
號

亞細亞 歐米 通商 條約 情報 人事 會計 文書 和平條約 對支文化

第八八号
今期議會ニ於テ閣下中ノ演說中ニハ自然勞働
鐵ノ批准及實施ニ言及セシメ義ト存スル地
外交代表者ノ内話ニ依リ現内閣ハ近ク在日
土國代表者ヲモ人選スルニ如ク其他土國官民
共ニ近時帝國ノ親交ニ特ニ注意ヲ拂ヒ告
ル傾向アリ偶々油田關係ノ決定目睫ニ迫リ實際
方中演說ハ多大ノ影響ヲ與フルモノナリ付帝國ガ
眞摯ニ土國ノ同業ニ助力スル機運味ノ鮮令リ

加へられし書素に於て好感ヲ促ス様取計了

MT 11212 03651

MT 11212 03650

門類
1/2
1/3
1/4
1/5
1/6
1/7
1/8
1/9
1/10

大臣
次官
書

電信課長

亞細亞 歐米 通商 條約 人情 會計 文書 平和條約 對支文化

件名
綴込名
外土外支関係

本

3908
平
147

目録表
本有署名

大正四年五月七日

右記
右記
右記

記録係
受

郵政外務大臣

ムラタシゲヤキルパンガリエフ
ヤヒシノエフ

カイジヒツルノ大會ニ集リて日本回遊徒ハ日上園文ノ関
々ヲ知リ其情ニ不堪者ニ閣下ニ祝電ヲ送ス願フ之ヲ
トシ日本ト回遊徒ノ接近ノ基礎トシメヨ之ヲ我等ノ日々ノ祈
リナリ

MT

11212

03652

附屬書類添附

歐米局

公第五〇號

綴込名目

大正十五年五月二十日

在大デッサ

領事代理副領事 上村伴一



歐米局長

情報部 第二課

通商局 第二課長

外務省文書課 第49號 15.6.22

外務大臣男爵幣原喜重郎殿

日存ト近來ト題スル
當地新聞記事譯報ノ件

五月二十日當地ノイカサエスヤル紙ハ「日存ト
近來ト」ト題スル左紙居存通信員ノ
報道ヲ掲載シタルニ依リ所考者ノ上ニ
別紙一通ヲ綴込ノ上右新デッサ切取添
付前ニ供貴覽

在オデッサ日本領事館



MT

11212

03654

M

11212

03653

REEL No. 1-0064

0092

五月三日 東京新聞「大分」紙所載

日本ト近來

六月月程前 英國カ 土年古 亞細亞民族間ニ
反歐洲 及 反基督教 ノ プロパグンダヲ 打建テント
スル 決意アリト唱シ 所謂 汎イスラミズムノ 世界
的大業山子ヲ 押シ連テントシタル 當時 徳邊
ノ 新方針 日本カ 善隣友邦關係ノ 基礎
樹立ノ 爲 近來 及 極東 亞細亞民族 大令ヲ
自國ニ 南進セントノ 意向アルニ 台ノ 報道ヲ
傳ヘタリ

其後 此ノ 問題ニ 關シテハ 何等 新シキ 報道
ヲ 見カレモ 日本カ 斯ノ 如キ 國際關係ノ 實
現ニ 非サル 活劇ヲ 停止セサル 幸ニ 支那

在オデッサ日本領事館

ニ 於ケル 諸種ノ
事實ヲ 歸納シテ 何人モ 昔々タル 可シ
吾人ニ 若少國 及 若少民族カ 強制的ニ 定メ
ラレタル 場ノ 界内ニ 押シ込メラレツ 如何ニ
外國ノ 助力ノ 一本ノ 葉ニモ 進ラントシツ、
アルカヲ 見タリ 或ニ 尙 抑其ノ 植民政策ヲ
變更スルカ 如何ク 見エタル 佛ノ 同情ニ 頼リ
或ニ 歐州ノ 金山 提携ヲ 約セシ 伊太利ノ 同情
ニ 訴ヘ 或ニ 正義ト 民族自尊主義ヲ 高唱
セシ 土年古ノ 同情ニ 進ラントセリ
然レトモ 土年古ノ 強固ト 假定シ 又 日本カ 十分
ノ 決意ヲ 有スト 假定スルモ 此ノ 二國以外
東洋ノ 方面ニ 於テハ (ソビエト 聯邦ニ 於テハ 除外ス)

MT

11212

03656

MT

11212

03655

亜細亞收権者ノ名ヲ戴キ得ル地位ニアル者
 ナレ
 思想的ニ論ズレハ此ニ素ヲ土耳其ニ有
 利ナリ 方一ニ土耳其ニ凡テノ植民地ニ語ラ
 レタル凡ソレニ試練ニ堪エ来リ奮闘的ニ革命
 的ニ経験ヲ有ス 又土耳其ニ比較的ニ進歩
 セル回教國ニレテ獨ニ勇敢ナルイスラミズム生
 今中 漸次社会主義萌芽生エツ、アルナリ
 此レトモ事實上ニ於テ此等ノ條件モ完備
 ニ即チ一瞬間ニ躍進ス可シ 土耳其ニ来テ
 基礎薄弱ニテ自國ノ困難ナル日常生活ノ
 外他ヲ思フノ余裕ナケレハナリ
 於茲ニ唯殊ルニ日本ノ之ニ経済的ニ強大ニシテ
 在オデッサ日本領事館
 資本主義的文化頗ル發達シ 軍備及商
 商機關整備シ 亜細亞及歐洲ニ於ケル權威
 増シテ 亜細亞民族ノ間ニ方一ノ役目ヲ擔シ得
 ルノ好運ヲ有ス
 近來方面ニ於テ日本ノ活動ニ世界大戦
 ノ頃ニ始マレカ當時日本ニ先ツ埃及市場
 場ニ自國及支那烟草ノ販賣ナル供給者
 トシテ現レタリ 而シテ主トシテ其ノ市場ニ
 ル特長ヲ示シタルトスルハ(萬國烟草)
 人欠五トニ依リ 幾程モナクシテ市場ニ
 於ケル 其ノ地位ヲ確立セリ
 次ニ日本ノ採ルル地歩ニ 廉價製造ナリ
 斯レテ日本ノ綿花ニ 競争ノ間ニ埃及及

MT

11212

03658

MT

11212

03657

ンリヤ、安價ナル英國製品ヲ駆逐シ北
 亞弗利カニ於テハ、伊古利品ト競争シテ成
 功シ、今ヤ土耳其及バルカン市場ニ侵入
 セトス
 又日本米、マンボタマヤ、レキガント、シリヤ
 ニ侵入シ、全盤波斯米ヲ駆逐シ、斯クテ
 三四ヶ年間ニ於テ、希臘、埃及、ソリア、
 能ハ、地中海沿岸ニ多大ノ顧客ヲ作シ、
 木細工品、鉄製器具、安價ナル陶器、室办調
 度品、化学製品、茶、香料、絹、木綿、罐
 詰、婦人手工品、飾物、食器類、機械部
 品、等々、近東方面ニ販賣セラレ、日本高
 品ノ概畧ナリ
 在オデッサ日本領事館
 當地(君府)ニ於テハ、日本ノ絹、土耳其
 産ルモノ、高價ニシテ、木綿、芥蘭モノ
 多ク高價ナラス
 本年始メ、君府ニ、日本高工業展覧會
 開カレタルカ、喧傳セラレタル程、効果アリトモ
 成功多クトモ云ヒ難シ、成印、寧ろ政治的
 チシト云フ可シ
 勿論、此等ノ事情ニ依リ、日本製品カ今日
 近東市場ニ有スル等、實上ノ地位ニ就キ
 語ルニ、尚早ノ端、アルモ、今時ニ、日本外
 交家及商人カ、長年英、佛、又近々、
 伊古利、如キ、大勲業國ニ、添セル市場ニ
 并シ、自國ノ高品紹介ノ準備的偵察ヲ

MT 11212 03660

MT 11212 03659

ナシタル其ノ稀ナル不屈性其ノ驚ク可キ
 弾力性ニ執テ其ノ強ニ懸望スルヲ得カント
 大戦以前ニ於ケル土耳古税関ノ材料ヲ
 積ルルニ日本ノ対土通商ノ影ハ一九四
 一九五ノ一トシニ之レヲ見ル能ハス然ルニ
 一九三三ノ日本ノ対土輸出ハ十一万三千ト
 リラレ一九四一ニ既ニ百三十七万一千
 トナリ而モ土耳其ノ対日輸出皆無
 一九五年前半期ニ至リテハ日本ノ輸入
 百九十九万トナリ上リ既ニ去年ノ土耳其
 貿易總額ノ四分四厘ヲ占ムルニ至リ
 然レトモ南言ス 重大ナル意義ヲ具ス
 日本商品輸入ノ率増大ニ成ルニ非ス
 在オデッサ日本領事館
 日本ノ競争者ノ間ニ其ノ稀ナル
 弾力性ヲ以テ特ニ近東ニ其注意ヲ向ケ
 タルノ率増大ナリ
 五月中旬 瓦片ニ在埃、何、却、牙、利、羅
 馬尼、希、爾、駐在 日本大使、緊急、令、漢
 計画セラレタルカ、此レ、歐洲、北部、に、於、テ、
 諸、事、件、駭、接、ノ、陰、ニ、匿、レ、種、カ、ニ、日、本、
 近、東、ニ、落、着、カ、ン、ト、シ、ツ、バ、リ、ナ、リ、

在露大使

在土大使

MT

11212

03662

MT

11212

03661

